

研究交流計画の目標・概要

【研究交流目標】 交流期間（最長5年間）を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。（自立的で継続的な国際研究交流拠点の構築と次世代の中核を担う若手研究者の育成の観点からご記入ください。）

「言語使用」に関わる「語用論」側面と「言語能力」に関わる「意味論」・「統語論」・「音韻論」的側面との融合を目指す「実験語用論」に係る研究は主に欧米で展開されており、ライプニッツ言語学研究センターは当該分野の拠点と見做されている。大阪大学は、過去5年間、ライプニッツ言語学研究センターとの国際共同研究のもと、東アジア言語における検証を通して当該理論発展に貢献してきた。本事業では、これまでの「実験語用論」に係る研究成果をもとに、「言語」と「思考（thought）」の関係に基づく、革新的な第一言語獲得モデル構築を目指すヨーロッパ研究拠点の「LeibnizDream: Child Languages as a Mirror of the Mind」プロジェクトと連携しつつ、第二言語、第三言語における実験語用論的側面の発達過程を解明することを通して「言語」の本質に迫り、最終的に「言語」と「思考」を結ぶ、新たな「言語理論」構築を目指す。この試みから、ヨーロッパ研究拠点とともに「言語学」の研究拠点を形成することを目的とする。

発達過程に関わる研究は理論的基盤の上に成り立つため、本事業では「理論」、「第一言語獲得」、「第二言語・第三言語獲得」の3研究班を構成する。それぞれの班を中堅以上の研究者、若手研究者から構成し、将来への継続性を維持し、さらにこの緊密な連携から生まれる相互作用を重要視する。

新型コロナウイルス時代を迎え、遠隔でのコミュニケーションが強いられ、円滑なコミュニケーションにおける「語用論的」側面の重要性を実感するところである。また、グローバル化する社会においては第二言語のみならず第三言語におけるコミュニケーションの機会が増えつつある。このような点から本事業の研究成果はグローバル化社会における円滑なコミュニケーション促進という観点から広く社会に貢献しうる。

【研究交流計画の概要】 我が国と交流相手国の拠点同士の協力関係に基づく多国間双方向交流として、どのように①共同研究、②セミナー、③研究者交流を効果的に組み合わせて実施するか、研究交流計画の概要を記入してください。

① 共同研究

本事業は、二国間交流事業（平成28年度—平成29年度）、大阪大学国際共同研究促進プログラム（平成30年度—令和2年）を通して構築された研究ネットワークならびに「実験語用論」に関する研究成果の上に、「LeibnizDream」プロジェクトの研究成果を踏まえつつ、第三言語獲得まで研究の幅を広げる。ここまでの共同研究同様、本事業においても、プロジェクトを複数設定し、ハンズオン形式で両拠点の研究者の知見を共有しながら各プロジェクトを遂行するプラットフォームを採用し、ミラノビコッカ大学を拠点に加え、世界初となる「実験語用論」＋「第二言語獲得・第三言語獲得」の国際共同研究を遂行する。最終的に各プロジェクトの研究成果・知見を融合し、さらに「LeibnizDream」プロジェクトにおいて構築される第一言語獲得モデルとの整合性をとりつつ、「言語」と「思考」の関係を捉える「言語理論」構築を目指す。

② セミナー

日本、ドイツ、イタリアの研究拠点を中心に国際共同研究セミナーを毎年、日本とヨーロッパ2拠点の間で交互に行う。また、遠隔システムを用いて、綿密に連絡を取り合い、上記の3研究班が海外拠点の研究者とプロジェクトを複数並行して遂行し、セミナーを各研究班の意見交換の場として捉え、研究班の間の相互作用を活発化する。この一連の作業に参画することによって若手研究者は、ハンズオン形式で「実験語用論」と「言語獲得」に関する専門的な知識の修得のみならず国際共同研究の運営方法について学ぶことができる。

③ 研究者交流

研究者の交流は、定期セミナーに加え、新型コロナウイルス感染症感染の状況を考慮しつつ、研究拠点間で若手研究者を中心に短期・中期派遣を強く推奨する。また、必要に応じて、関連分野の研究者を招聘する。

一般国民に理解できるよう、平易な言葉で記入してください。

この様式は、独立行政法人日本学術振興会において定められたものです。様式の改変はできません。

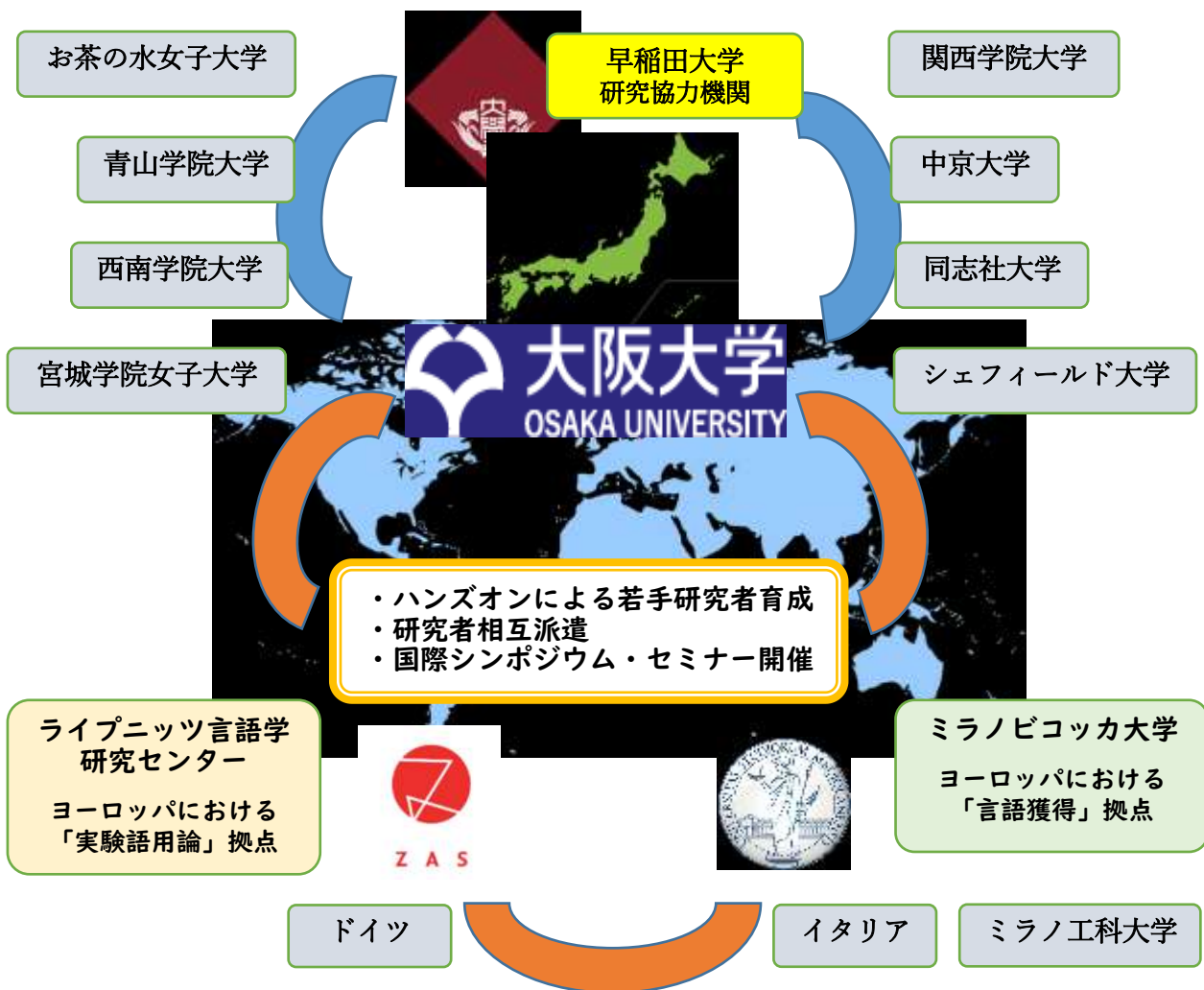
[実施体制概念図] 本事業による経費支給期間（最長5年間）終了時までには構築する国際研究協力ネットワークの概念図を描いてください。

自然言語の構造と獲得メカニズムの理解に向けた研究拠点形成

ゴール：

- ・「言語」と「思考 (thought)」の関係を捉える「**第二言語・第三言語獲得モデル**」構築
- ・「LeibnizDream」プロジェクトと連携のもと、新たな「**言語理論**」構築

「実験語用論」+「第二言語獲得、第三言語獲得」の研究から「言語学」の国際的研究拠点形成



「LeibnizDream: Child Languages as a Mirror of the Mind」プロジェクト
 ・「言語」と「思考 (thought)」の関係を捉える第一言語獲得モデル構築

ヨーロッパリサーチカウンシル シナジー助成金 (2021-2026)
 大阪大学：研究協力機関